



# 尺

しゃく



度量衡換算表 (長さ)

| メートル<br>(m) | 寸  | 尺   | 間         |
|-------------|----|-----|-----------|
| 0.0303      | 1  | 0.1 | 0.0166666 |
| 0.30303     | 10 | 1   | 0.166666  |
| 1           | 33 | 3.3 | 0.55      |
| 1.81818     | 60 | 6   | 1         |

## 概要

「尺 (しゃく)」は、尺貫法 (しゃっかんほう) における長さの単位のひとつです。尺貫法とは、1891年の度量衡法 (どりょうこうほう) によって定められた計量の方法で、長さの単位を「尺」、体積の単位を「升 (しょう)」、質量の単位を「貫 (かん)」とするものです。その後いくつかの段階を経て1959年にメートル法に統一されるまで、日本における度量衡の単位として使用されてきました。

「尺」という単位は、701年の大宝律令で大尺と小尺が制定されて以来、江戸時代には様々な「尺」が使用されていました。例えば、徳川吉宗が制定した「享保尺 (きょうほうしゃく)」や、「又四郎尺 (またしろうしゃく)」と呼ばれるものがありました。さらに、伊能忠敬が全国を測量する際に用いた「折衷尺 (せっちゅうしゃく)」というものもありました。これは「享保尺」と「又四郎尺」の長さを折衷したものとされています。

現在では、長さを計る単位はすべてメートル法に統一されていますが、今でも使用が許されている「尺」として、「曲尺 (かねじゃく)」と「鯨尺 (くじらじゃく)」の2種類があります。「曲尺」は尺貫法の基本単位だったので、1891年の度量衡法では、1尺は10/33m (約30.30cm) と定められていました。今では、日本家屋などの建築に用いられています。また「鯨尺」は曲尺の1.25倍にあたり (1尺=約37.88cm) 和裁に用いられていました。

日本語の中では、長さの概念を示す言葉として日常的にも、尺、寸 (1/10尺)、分 (1/10寸) などがしばしば使われています。たとえば、長さの不足を示す「寸足らず」「尺足らず」、隙間のないことを示す「1分の隙間もない」「寸秒を競う」、図面の寸法を示す「縮尺」「原寸」などが代表的です。

歌舞伎大道具、材木寸法などでは、単位寸法としていまだに活用されています。例えば、ベニヤ板は6尺×3尺 (三六判) が基準となっています。